

報 告 書

開催日時	平成26年11月4日（火）午後9時～10時25分	
開催場所	陸前高田市役所（4号棟第5会議室）	
出席議員	挨拶	佐藤信一班長（産業建設常任委員会委員長）
	司会進行	佐々木一義
	報告者	菅野定
	記録者	伊勢純、菅野広紀
	議員	伊藤明彦
参加人数	6人 他 報道2名	
主な要望 ・ 提言等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人手不足が課題である。 ・ 復興中心に進めてきた。経営計画を立てて進めているが、遅れている。来年も原木が不足する事態だ。 ・ 県内企業で木質バイオマス発電に取り組むところがあるが、原料の供給が不足するのではないか。1立米あたり2,000円安いので、県外への出荷となる。内陸は切る山があまりない。気仙が供給源として考えられていると思う。生産量は気仙が一番多い。 ・ 林業振興で川上から川下までとは、よくいわれるが、具体的には何を指しているのか。 ・ 木のグレードに合わせて利用することが大切だ。（材木からチップまで） ・ 現在は市内の人工林率は6割を切っている。皆伐で植え付けをしていない。 ・ 企業の経営計画では、安いものを使う。自由化されているので厳しい。九州との戦いだ。 ・ 工場によりコストが異なる。 ・ 原木は、合板会社が主に値段を決める。そこで少し値があがる。45,000円のが乾燥・プレーナー仕上げで55,000円ほどになる。 ・ 森林税については制限が長すぎる。分収林には使えない。 ・ 山主は70才中心で20年後に切る場合、だれがどうするか。だれもやらない。一気に5割を切ると災害の可能性がある。 ・ 再造林は難しい。年金と同じような状態。 ・ 住宅の供給については、需要が楽観できない。東京オリンピック後 	

	<p>はどのようなのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅の建設には、材木は施工費全体の 10%しか使わない。他が高騰しても木材は、ほとんど値が変わらない。 ・住宅新築は減っても、アパート等は減らない。介護施設や店舗も需要はある。CLT（2階より上は木造構造）の時代はくると思う。2年後に国土交通省で認可が出るだろう。 ・市として木材利用をどのように考えているのか。他産業への支援が手厚いように思える。 ・人口減対策として、自然に近い形の林業のことも職種として若い人たちが考えることができるようにならないかと思う。木を身近に感じる公園や林業体験など、できないか。 ・氷上山の山頂は、手入れをすべきではないか。 ・学校などの木質化についてというよりも、公共施設での木材利用を進めてほしい。市として明確にそうした方針を出してほしい。 ・これまでの施策として、みどりの雇用で10人が定着した。震災後の雇用は難しい。機械化が大切だ。 ・災害の際などに化石エネルギーだけにたよる体制はもろい。公共施設に化石エネルギーと木材によるエネルギーといった二段構えの準備をすべきではないのか。 ・作業の効率をあげるために林道の側溝のフタをかけてほしい。 ・円安の影響があり、国産材の安定供給ができない。 ・林業において岩手は全国で下から2番。賃金アップが若者対策には一番大切なこと。 ・津波で被災した事務所の再建には補助や支援がなく、利子補給だけであり、再建が難しい。 ・箱根山の遊歩道が荒れているが、放置されている。整備を進める必要があると思う。 ・山林の所有者が震災でわからなくなってしまった。 ・気仙材にとびぐされが多い。 ・外材とバランスをとってやっていくしかないのではないか。
<p>所 感</p>	<p>【伊勢純】</p> <p>台風などの自然災害の際に山や森林の管理の重要性が注目される。環境保全として、また林業振興としても、ひとつの回答として、公共施設での地元材活用や地元の人材にあたってもらうことは、参加者のご意見にみられるようにとても大切なことである。その方向性を探りながらも、小規模でも施工数が多くなる「木質化」を、市内小中学校で内装の老朽化がみられるところやコミュニティセンターなどに積極</p>

的に進めることも、非常に有効な手段と私は思う。また、ご指摘のあった山頂や遊歩道の整備に加え、他自治体に見られるような生活環境向上のための森林管理なども進める必要があるのではないかと思います。

専門技術を有する関係者と行政側との共通の認識や施策として実現させていきたいと思う。

【菅野定】

当市の森林林業の活性化のためには、森林組合の基盤づくりが大切と考える。そのため、しっかりとした場所に、事務所を構え、林業の研修や指導がなされる施設の建設が必要と考えます。現在は事務所を建設するのに利子補給のみの支援であるという。

当市は気仙杉の産地であり、隣の気仙木材加工協同組合の製品が総理大臣賞や天皇賞など数々の賞を取っている。その木材供給の中心となっているのが森林組合である。組合は気仙の木材の供給基地であることから、組合への支援を国・県などと協議して、震災で全壊した事務所再開に向けて、力を貸していただきたい。

【菅野広紀】

自伐林業で発電所は現実問題としてムリが有るのでないかと考える、地域全体で考える。

山の環境保全と間伐材利用について、環境維持目的で単に行政からの補助金というのではなく他地域で実践している「地域通貨」の考え方も参考になった。

【伊藤明彦】

木材価格の低迷、林業労働者の高齢化、木材生産のコスト高、再造林の減少等、林業企業団体は苦戦を強いられている。国際的な金融や経済にも国産材の供給が影響することが分かった。

【佐々木一義】

森林組合では、復興事業が最優先で、事業計画が立てられていない。原木の価格は、合板が相場を決めている。国産材だけでは、安定供給はできない。九州は樹齢 30 年で製品となるが、気仙では、50 年かかって製品になる。南は、年中仕事ができるが、北国は、冬は仕事が出来ない。そのため北国の給料は低く、働く人が少い。木は金に成らないので、山の伐採、植林は進んでいない。

プレカットでは、今まで大型建築は、コンクリートがほとんどでしたが、住田庁舎の様に木造建築が見直されている。木を売る方は高く、造る方は安く仕入れたいという意向を、今後どの様に取り入れていくのが課題である。

【佐藤信一】

森林組合、製材所、プレカットからの出席があり、市の林業の現状と課題について、それぞれの現場から生の声を聞くことができた。

昭和36年の木材の輸入の自由化から、林業は厳しい状況におかれてきたが、森林整備や、有効利用に向けた取組みについて活発な意見交換ができたと思っている。

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員長 松田信之様

平成26年12月9日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成26年度議会報告会 3班

班長 佐藤信一 ⑩